令和２年８月１０日

愛知県上海産業情報センター
林　　秀　幸

一般調査報告書

新型コロナウイルス肺炎の流行に伴う上海市内の状況について(7)

6月の北京での集団感染(クラスター)の収束から間もなく、7月16日、新疆ウイグル自治区ウルムチ市で新型コロナの新たなクラスターが発生しました。次いで22日には遼寧省大連市でも新たに集団感染が確認され、まるでモグラたたきゲームのように各地で散発する感染の状況に、新型コロナとの戦いの長期化を覚悟せざるを得ない現実があります。

そうした中、6月から降り続いた長雨の影響により、中国各地で洪水が発生し、大きな被害が出ました。

安徽省滁河で人為的に爆破された堤防から低地に流れ込む水（出典：新華社）

洪水は、7月末までに全国25省・自治区・直轄市において発生し、特に長江流域の安徽省、江西省、湖北省などに深刻な被害をもたらしました。政府の発表によれば、7月の被災者は延べ3,817万3千人、死者・行方不明者は56人に上り、家屋の損壊や農作物への被害など経済損失は1,097億4千万元(約1兆6,800億円)に上るとのことです。長江の支流にあたる安徽省の滁河では、下流にある南京市（人口約840万人）や合肥市（人口約500万人）などの大都市への洪水被害を防ぐため、上流の堤防を人為的に爆破し、近隣の農耕地や湿地に水を逃がすと

愛知県
Copyright © 2020, Aichi Prefecture.
All rights reserved.

いう苦肉の対策がとられました。これにより河川の水位が70センチ以上下がったと報じられています。

7月には他にも、干ばつやヒョウ、森林火災などによる被害が各地で報告されるなど、人々は新型コロナに加えて自然災害による新たな脅威にも向き合うことになり、ネット上などでは、2020年は「生きていられるだけで良い(活着就好)」という言葉が語られるようになりました。

１．これまでの主な経過

2020年

7月14日	・中国民航局は、東方航空の東京－西安間の国際線の運航を認可
	・重慶市で、エクアドルから輸入された冷凍エビから新型コロナウイルスを検出
7月15日	・香港ディズニーランドが再び休園
7月16日	・中国国家統計局は、第2四半期(4～6月)のGDPが前年同期比3.2%増と発表
	・新疆ウイグル自治区ウルムチ市で集団感染(クラスター)が発生
7月17日	・中国民航局は、日本航空の東京－大連間の国際線の運航を認可
7月19日	・北京市は、新型コロナの緊急対応レベルを2級から3級に引き下げ
7月20日	・中国各地で映画館の営業を再開
	・北京市は、市外への国内団体旅行を解禁
7月21日	・中国民航局は、国際線での入国搭乗時に、5日以内のPCR検査の陰性証明書の提出義務化を発表
7月22日	・遼寧省大連市で集団感染(クラスター)が発生
7月23日	・上海市は、海外入国者に対する14日間の指定施設での隔離措置を、条件を満たせば8日目以降は自宅隔離も認めると発表
7月27日	・北京市で新型コロナの新規感染者1名(大連関連)が発生
7月28日	・大連市は22日以降、296万人分のPCR検査のサンプル採取を実施
	・中国国内で3か月ぶりに1日の新規感染者が100人を超過
8月 4日	・トヨタ自動車は、1～7月の中国の新車販売台数が前年同期比1.1%増と発表
8月 6日	・吉祥航空は、大阪－南京間の定期便を再開
8月 7日	・広州日本商工会のチャーター機(第2便)が広州に到着
	・春秋航空(LCC)は、大阪－常州間の定期便を再開

中国の国内感染状況：累計感染者数84,668人（8月9日現在）
累計死者数4,634人（〃）

※ 感染者数の数値は、中国国家衛生健康委員会の各日24時現在の公表データによる。なお、「国内」には香港、マカオ、台湾は含まない。

愛知県
Copyright © 2020, Aichi Prefecture.
All rights reserved.

２．上海市内の状況

新型コロナの影響により人の往来が途絶え、国際的な経済交流の停滞が懸念される一方、国際物流は一部で活気を取り戻しつつあるようです。中国税関の統計によれば、7月の貿易額は速報値で前年同月比3.4％の増となっており、2か月連続のプラス成長を示しています。このうち日中貿易は1.9％の増で、うち中国から日本への輸出は2.0％減(118億4,070万ドル)に対し、日本から中国への輸入は5.1％増(153億3,380万ドル)となっています。

新型コロナによる外出制限や現在も続く海外への渡航制限の中で、多くの人が潜在的な購買意欲を抱えているとも言われており、SNS上では「リベンジ消費(報復性消費)」という言葉も流行しています。

そうした中、上海市で昨年末以降に初出店した店舗には日本ブランドも目立ってきています。日本のライフスタイル提案型ファッションブランド「niko and...(ニコ・アンド)」が昨年12月に上海グローバル旗艦店をオープンしたのを始め、ゲーム機の「Nitendo Switch(ニンテンドースイッチ)」の公式体験ショップや、大手雑貨専門店「Loft(ロフト)」の海外初直営店など、日本でも人気のブランドが上海市に次々進出し、連日にぎわいを見せています。また、愛知県企業からは、メイド・イン・ジャパンの鋳物ホーロー鍋「Vermicular(バーミキュラ)」なども進出しており、日本の高品質な商品を上海市内の人気の高い商圏で販売するといった動きが目立ってきています。

上海市静安区の久光百貨店にある「Vermicular(バーミキュラ)」の店舗（筆者撮影）

また、こうした動きと相まって、上海市では自由貿易試験区の存在が新たに注目を集めています。

愛知県
Copyright © 2020, Aichi Prefecture.
All rights reserved.

上海自由貿易試験区は、2013年に設立されました。当初は上海浦東空港総合保税区を含む約29K㎡からスタートしましたが、その後、陸家嘴金融エリアなどを追加しながら総面積120K㎡まで拡張され、2019年8月には「臨港新片区」（約120K㎡）が新たなエリアとして増設されました。

この「臨港新片区」は、上海自由貿易試験区の中でも、その他のエリアに比べより高い位置づけがなされており、貿易、投資、金融、越境ECなどの分野において、国際的な競争力を高めるための高機能型プラットフォームの構築を目指しています。また、企業の集積だけでなく、商業施設やホテル、マンションや国際学校の整備など、貿易特区をベースとした巨大な国際貿易都市の建設が始まっています。

上海自由貿易試験区のコンテナ陸揚げ拠点「小洋山島区域」（筆者撮影）

人・モノ・カネのうち、「人」の動きが大きく制限されている現在の状況を一つの契機として、今後は物流を中心に経済を回していく流れが一層加速していくのではないかと思われます。

上海産業情報センターでは、今後も中国の現地情報を提供して参ります。

本資料は、参考資料として情報提供を目的に作成したものです。
上海産業情報センターは資料作成にはできる限り正確に記載するよう努力していますが、その正確性を保証するものではありません。本情報の採否は読者の判断で行ってください。
また、万一不利益を被る事態が生じましても当センター及び愛知県等は責任を負うことができませんのでご了承ください。

Copyright © 2020, Aichi Prefecture.
All rights reserved.